

印西市企画提案型協働事業 事後評価シート(比較表)

1. 事業概要

事業名称	道作古墳群歴史広場維持管理事業		
事業の実施者	実施団体名	特定非営利活動法人小林住みよいまちづくり会	
	所管部署	生涯学習課	

2. 事業のプロセス評価

	設問	小林住みよいまちづくり会				印西市			
			十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分
(提案書提出前) 協働事業開始前	Q1 申請者と関係各課との間で相談や協議を行いましたか。	1. 実施した 2. しなかった				1. 実施した 2. しなかった			
	Q2 相談や協議を行うことにより、相手方の主張について理解を深められましたか。	○				○			
	不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを以下に記入してください。	<提案時に留意した点> ・過去のアンケート結果に配慮し、当会としてできることは極力提案に織り込んだつもりである。 ・具体的には、四季の花の植栽、広報の充実(HPアクセス数増、機関誌の配布)など。							
(アイデア審査後、最終審査前) 協働事業開始前	Q3 事業の詳細を協議するにあたり「企画提案型協働事業実施要領」の事業の流れや提案にあたっての留意事項を参考としましたか。	1. した 2. しなかった				1. した 2. しなかった			
	Q4 お互いの立場、置かれている状況、特性を理解できましたか。	○				○			
	Q5 協議は対等・協力的に行えましたか。	○				○			
	Q6 共有すべき課題について確認できましたか。	○				○			
	Q7 互いの果たすべき役割の認識・目標の分担ができましたか。	○				○			
	Q8 最終的な協働事業効果・事業成果について確認できましたか。	○				○			
	不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを記入してください。	◆市に対し、具体的な花植えの場所、種類(アジサイ等)を提案し意識を合わせた。							

	設問	小林住みよいまちづくり会	印西市
協働事業実施中	Q9 事業の中間報告や市担当職員が現地に赴くなど、パートナー双方が進捗状況を確認したり、自由な意見交換を行いましたか。	1. 行った 2. 行えなかった	1. 行った 2. 行えなかった
	Q10 当初の課題についてより深く理解し、新たな課題を共有できましたか。	十分できた できた 不十分 全くできなかった	十分できた できた 不十分 全くできなかった
	Q11 当初の事業内容や協議事項に変更が生じた際、柔軟に対応できましたか。	十分できた できた 不十分 全くできなかった	十分できた できた 不十分 全くできなかった
	Q12 打ち合わせ事項(合意事項)は記録に残しましたか。	1. 残した 2. 残さなかった	1. 残した 2. 残さなかった
	不十分と回答した場合はその理由を、また事業実施に当たって留意した点や気になった点などをご記入ください。	◆1号古墳の発掘調査(印旛郡市文化財センター実施)、地中レーダ探索調査(東京工業大学実施)の実施時期と、当会の整備作業との日程調整を行った。	・古墳の発掘調査等や現地説明会などの事業に合わせて柔軟な対応をしていただくことにより、より効果的な活用が可能となった。
協働事業実施後	Q13 成果を広く市民と共有できるよう取り組みましたか。	十分できた できた 不十分 全くできなかった	十分できた できた 不十分 全くできなかった
	成果を共有するに当たり、どのような方法で情報発信を行ったか具体的に記入してください。	◆市民との共有の実践手段として、 ①機関誌(瓦版)に道作古墳整備事業関連記事を掲載。 ・4月と10月に各1,000部印刷し町内会、学校、各団体等に配布 ②ホームページへの掲載 ブログ形式で道作古墳群見学会等の記事を掲載し、かつアクセス数向上を図り、前年度に比し20%増を達成した。 (2016年度 1,050アクセス/月、2017年度 1,250アクセス/月) ③道作古墳群見学会の内容充実を図った(出土品の展示に加え、小林地域の自然、歴史、伝統行事等幅広いパネル展示) ④道作古墳群見学会の案内(チラシ)の作成・配布(町内会、学校、各団体等) 500部	・会のHPや機関誌などで積極的に情報を発信していただいた。また、見学会等において協働事業についての紹介を行った。

	設問	小林住みよいまちづくり会	印西市
協働事業実施後	Q14 役割や責任分担は適切でしたか。	①. 適切 2. 適切でない	①. 適切 2. 適切でない
	適切でないと回答した場合はその理由を記入してください。	◆協働事業の具体的な業務として草刈等の実作業は会が実施するとともに、文化財普及イベント(道作古墳群見学会)を春・秋2回開催したが、 ①市は、古墳・遺跡出土品の展示と説明。資料作成と配布。広報印西・市HPによる広宣活動。特にHPについては会HPへのリンク設定を実施。 ②当会はHP、機関誌(瓦版)による広宣活動、アンケートによる住民の道作古墳群広場への今後の在り方に関するニーズ把握、パネル展示による小林地域の歴史意識の啓発をそれぞれ分担し相互に連携して実施した。	・会においては、維持管理事業に努めるとともに、見学会等を開催し道作古墳群の周知を行った。 ・市では、見学会における遺物の展示・開設、スズメバチの巣の撤去等、会では対応不可能な業務について協力した。
協働事業実施後	Q15 資金負担は適切でしたか。	①. 適切 2. 適切でない	①. 適切 2. 適切でない
	適切でないと回答した場合はその理由を記入してください。	◆当会としての資金負担としては、道作古墳群見学会分が主たるものであり、会場設営におけるテント、パラソル、テーブル、椅子等の機材、珈琲・烏龍茶の無料サービス等とそれに伴う作業費であるが、概ね計画どおりの予算で達成できた。(春の見学会における「野点」「抹茶・和菓子」は実費相当の300円での提供とし、その結果39名に味わって頂いた)	・概ね計画通りに執行され、適切であったと考える。

3. 事業の成果評価(事業計画書や事業完了報告書を踏まえて)

協働事業実施後	Q16 事業は当初の計画どおり実施できたと思いますか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
		○					○		
実施できた点(できなかった点)を具体的に記入してください。	◆主事業である「草刈」「樹木管理」等は草の生え具合、台風により実施日程の変更は生じたが、年間工程としては計画どおり遂行できた。 ◆細かい点では、例えば刈草の廃棄処理量は若干計画値より増という結果になったが、雨上がりに草刈等をしたため刈草重量が重くなったりした反省がある。(計画1,840kg⇒実績2,010kg)	・雑草の生育状況や廃棄重量など、気象条件等によって数量の変動が生じたが、概ね計画どおり実施することができた。							

	設問	小林住みよいまちづくり会				印西市			
		十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
協働事業実施後	Q17 当初設定した成果目標や事業目的は達成できたと思いますか。	○				○			
	達成できた点(できなかった点)を具体的に記入してください。	◆古墳を軸に郷土の歴史意識の啓発という目標を掲げ、その一環として小林小、小林北小、小林中の校長を通じ、地理学習等の休憩場所として活用し、古墳はもとより27,000年前からの歴史を伝えて貰う依頼をした。また、必要があれば会として説明をする旨伝えた。各校長とも非常に興味を示してくれ積極的な反応であった。 ◆市民の声の反映①見学会でのアンケートに要望の出ている、季節の花の植栽(スイセン、アジサイ、ハナニラ)については着実に進捗を図っている、②見学会への参加者増を図るため、HP、機関誌の充実など広報活動に注力したが、結果としては参加者は春100名、秋70名程度で決して満足いくものではなかった。				・主目的である歴史広場の維持管理について、達成されていると考える。			
	Q18 経費の支出は適切でしたか。	○				○			
	適切でない支出があった場合は、その内容と理由を具体的に記入してください。	◆前年度は草の生育、台風の襲来に合わせて提案者負担として草刈回数を増やしたりして対応し若干の支出増をまねいてしまったが、今年度は日程調整により計画どおりの工程を遂行することに努め支出負担も概ね適正だったと考えている。 ◆とは言え、①車両使用を11回で計画したが、刈草処理の関係で13回となったこと、②刈草の焼却が1,840kgで計画したが実績としては2,010kgとなり若干の費用増(提案者負担として約1万円)				・雑草の処理等、団体の負担が増大した点もあるが、概ね適切であったと考える。			
	Q19 協働で事業を実施したことは、単独で事業を実施するよりも効果があったと思いますか。	○				○			
効果があった点や課題を具体的に記入してください。	◆文化財普及イベント(道作古墳群見学会)で来場者が最も期待することは、土器等出土品の展示と説明でありこの点は当会では不可能である。アンケート結果を見ても来場者の声として、①古墳等の説明が分かり易く良かった、②土器等を実際に見れて良かった、という評価。 ◆しかし一方では、説明が1人の配置とか、実際の古墳調査をビデオ展示とかの要望もあるなど、更なる古墳、土器の現物への深い興味を満足して頂けるアクションが必要とも感じている。				・単独で事業を実施した場合と比較し、予算的にも大きな負担軽減となるだけでなく、市民団体の自主的な活動により、地域の文化財としてのランドマーク的な役割も果たすことができ、活用の面に関しても効果があったと考えられる。				

	設問	小林住みよいまちづくり会	印西市
協働事業実施後	事業の実施により、事業計画で示しQ20た地域課題の改善につながったと思いますか。	1. 思う 2. 思わない	1. 思う 2. 思わない
	改善が図られた点や課題が残った点を具体的に記入して下さい。	<p>◆印西市全域、地元の人達が、「こんな近くに27,000年前から人が居た、そして1,500年前の古墳がここにあるということを知らなかった」という認識はアンケートや日頃訪れる人から良く聞いている。少しでも近隣の歴史に興味を持って頂いていることは実感できている。やはり実際の古墳を前にして語られ、聞くことはより身近な存在として感じ取って貰えるようである。</p> <p>◆普段から近所を散策して「あずまや」で休憩している地元(馬場エリア)の人からスイセンの球根を大量に寄付して頂いたり、その意味では地元に着してきていることも感じている。</p>	<p>・道作古墳群歴史広場において、市民が安全に憩える場所にするという課題に対し、多大な成果をあげていると考える。更に多くの人が広場を利用できるよう、周辺の文化財や観光資源との総合的な活用を計画していく必要がある。</p>
	<p style="text-align: center;">今後の展望</p> <p>事業の今後についての見通しをご記入ください。</p>	<p>◆道作古墳は、近くの鳥見神社、巴塚を含めた歴史散策、地元の散歩休憩場所として訪れる人が非常に多くなってきており、道作古墳は「非常に明るく見違えるよう綺麗になって良かった」という評価を受けている。これは見学会アンケートからも明らかで、今後は単に整備だけでなく、付加価値を付け向上させていく必要があると考えている。</p> <p>◆今後の課題・展望</p> <p>①周りの自然のコースの紹介、②写真撮影の被写体としての適した景観づくり(現在は電柱、ケーブルなど人口的施設が目立つ)、③民有地の2号、3号、6号古墳を含めた近接する古墳との融合化、④小・中学校生徒の学習の場(古墳を軸とした人・遺跡等による歴史)、⑤より古墳公園らしくするための花植えなど(見学会アンケートの反映)</p>	<p>・協働事業により、道作古墳群歴史広場については、市民に対し良好な環境が提供できる状況となっている。今後は、見学者の増加と積極的な活用を目指し、周辺資源と連動した史跡の活用を検討していく必要があると考える。</p> <p>・また、市において発掘調査を実施中であるため、調査結果等の情報共有を図り古墳群の周知活用につなげていきたい。</p>

調整課(市民活動推進課)付帯意見

当提案は、道作古墳群歴史広場を市が整備したことをきっかけに、小林地区の活性化をミッションに活動するNPO法人小林住みよいまちづくり会が維持管理及び活用を図る協働事業として採択されました。平成29年度は、平成27年度から連続して3年目の事業実施となりました。

維持管理事業は、これまでの経験を生かし、年間を通しておおむね順調に行われたようです。また、事業の企画段階から、市民向けアンケートや公開審査会等での意見を極力とりいれるよう努めたことが窺えます。文化財普及イベントとして行われている古墳見学会では、市職員が出土資料の展示解説を行うなど、それぞれの特性に応じて適切な役割分担が行われたようです。継続して実施する中で、古墳群の存在は徐々にではありますが着実に地域に根付きつつあるものと思われまます。

提案者は今後も維持管理を継続し、イベントの実施についても積極的に行っていく意向で、担当課としても提案者に事業を継続してほしいと考えております。平成30年度が企画提案型協働事業(市民提案型)としての最終年となることから、今年度は事業を実施しつつ、来年度以降の継続方法について、結論を出すことが必要となります。